デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026年10月16日（金） 発行：ていネコの投資ノート

1．本日のサマリー

■ 日経平均株価は898円34銭高（1.39%高）の6万5324円29銭で、7営業日ぶりに反発した。6日続落で6000円強を失った後の自律反発で、後場寄りには1200円超上昇して高値6万5712円30銭を付けたが、大引けにかけて伸び悩んだ。

■ 主因は前日の米国市場でNYダウが556ドル高と3日ぶりに反発したことと、値頃感からの買い戻しである。東京エレクトロン1銘柄で日経平均を134円押し上げ、プラス寄与上位5銘柄で374円、上昇幅の42%を占めた（筆者算出）。

■ 物色は幅広かった。33業種のうち32業種が上昇し、下落は電気・ガス業のみ。TOPIXの上昇率1.67%は日経平均の1.39%を上回り、半導体株の買い戻しと金融・建設・不動産を含む全面高が同時に起きた。

■ 一方で戻り幅は前日の下げ3318円34銭の27%にとどまる。新発10年国債利回りは0.010%上昇の2.930%、ドル円は158円手前で上値が重い。WTI原油は在庫減と中東情勢で97ドル台後半へ続伸した。

2．主要指標

指標名	水準	前日比	備考
日経平均株価	65,324.29円	+898.34（+1.39%）	7営業日ぶり反発
TOPIX	4,066.00	+66.66（+1.67%）	3営業日ぶり反発
東証プライム売買代金	7兆6,686億円	—	概算値（前日10.14兆円）
東証プライム売買高	23億7,905万株	—	概算値
値上がり／値下がり	1,292／224	—	変わらず30、上昇83.2%
新発10年国債利回り	2.930%	+0.010%	384回債、利率3.1%
長期国債先物12月限	125円54銭	−6銭	大阪取引所
新発2年国債利回り	1.892%	—	10月15日時点
新発5年国債利回り	2.309%	—	10月15日時点
新発20年国債利回り	3.786%	—	10月15日時点
米10年債利回り	5.060%	−0.130%	10月15日終値
ドル／円	158円00銭近辺	—	東京157.79〜158.18
ユーロ／円	177円30銭近辺	—	東京177.15〜177.52
NYダウ	52,177.69ドル	+556.21（+1.08%）	10月15日、3日ぶり反発
S&P500	7,744.06	+25.12（+0.33%）	10月15日、4日ぶり反発
ナスダック総合	26,713.03	+20.16（+0.08%）	10月15日、小幅高
SOX指数	—	−0.9%	10月15日、7営業日続落
韓国KOSPI	5,668.05	+113.83（+2.05%）	16日、8営業日ぶり反発
上海総合指数	3,716.28	+8.81（+0.24%）	16日終値
香港ハンセン指数	24,186.83	+124.11（+0.52%）	16日終値
台湾加権指数	47,111.26	+141.39（+0.30%）	16日終値
豪ASX200	8,806.70	+87.00（+1.00%）	16日終値
WTI原油11月限	97.97ドル	+2.88（+3.03%）	10月15日終値
NY金12月限	4,170.10ドル	+62.20（+1.51%）	10月15日清算値

3．株式市場

値動きの経緯

前日に3318円34銭安と歴代3位の下げ幅を記録した反動で、日経平均は499円34銭高の6万4925円29銭で寄り付いた。前日の米国市場でNYダウが3日ぶりに反発したことが支えとなり、前場のうちに6万5000円台を回復。後場寄りには上げ幅を1200円超に広げて高値6万5712円30銭を付けたが、そこからは戻り待ちの売りに押され、大引けは898円34銭高の6万5324円29銭で着地した。安値は寄り付き直後の6万4800円90銭で、日中の値幅は911円40銭。東証プライムの売買代金は7兆6686億円、売買高は23億7905万株で、10兆円を超えた前日からは落ち着いた。

物色動向と個別材料

上昇率上位はその他製品2.75%高、機械2.44%高、保険業2.36%高、輸送用機器2.12%高で、前日に6.13%安となった電気機器も2.07%高と戻した。下落は電気・ガス業の0.74%安のみ。寄与度では東京エレクトロンが134円、ソフトバンクグループが74円、イビデンが74円、ベイカレントが51円の押し上げ。半面、ファーストリテイリングは66円の押し下げで、小売業は0.04%高と上昇率最下位にとどまった。売買代金はキオクシアホールディングス、アドバンテストなど半導体関連が上位を占めた。個別では大末建設が上方修正・増配・自己株取得の発表でストップ高となり、ベイカレントやSHIFTは好決算を評価された。一方、パシフィックネットは第1四半期の大幅減益を嫌気して急落した。なお上昇率が最も低かったのは小売業、パルプ・紙、海運業で、前日の下げが小さかった内需・ディフェンシブ系は反発局面でも出遅れている。

4．本日の主題：戻り幅27%の反発と、日経平均を上回ったTOPIX

まず、今回の調整が何だったのかを確認したい。日経平均は10月9日の6万9030円92銭から15日の6万4425円95銭まで4営業日で4605円、6.7%下げ、6営業日続落で6000円強を失った。ところがTOPIXは13日まで上昇しており、下落は14日と15日の2日だけである。同じ東京市場を測る2つの指数で、連落日数が6日と2日に分かれた。この差そのものが、今回の調整の中身を映している。

理由は指数の構成にある。日経平均は株価の高い半導体関連とソフトバンクグループの寄与度が大きく、TOPIXは時価総額加重で金融・内需・資源の比重が相対的に高い。米国でSOX指数が7営業日続落を続け、AI向け投資の過剰とメモリーの供給過剰が意識される局面では、下げは日経平均に集中する。15日の急落も電気機器が6.13%安となったことが最大の要因だった。つまり下げていたのは「日本株」ではなく「日経平均の上位銘柄」だったと整理できる。

16日の反発はその裏返しに見えるが、実際は二重構造だった。プラス寄与上位5銘柄で374円、上昇幅の42%を稼ぐ一方、TOPIXの上昇率1.67%は日経平均の1.39%を上回った。半導体株の買い戻しと、幅の広い買いが同時に入った形である。ただし戻り幅は前日の下げの27%にとどまり、半導体の需給が改善したと判断できる材料はまだない。32業種上昇という内容は相場の裾野が崩れていないことを示す一方、日経平均の戻りは依然として値がさ株の自律反発に依存している。

5．債券・金利

新発10年債利回りは0.010%上昇の2.930%で引けた。株価の上昇が国債売りを誘い、前日までの逃避買いの流れが一服した形である。長期国債先物12月限は6銭安の125円54銭。前日15日は世界的な債券高を受け、2年債から20年債まで各年限で利回りが大きく低下していた。米国では15日に10年債利回りが0.13%低下して5.06%で終えたが、16日のNY寄り付きは5.104%と反転しており、5%台での綱引きが続く。16日の国債入札はなく、次は20日の20年物国債入札となる。

6．為替・商品

ドル円は東京時間を157円79銭～158円18銭で推移し、158円手前では上値の重さが目立った。米長期金利の小幅低下を受けたドル売りが優勢で、ユーロ円は177円15銭～177円52銭、ユーロドルは1.1208～1.1241ドルのレンジ。株価が900円近く上昇したにもかかわらず円安が進まなかった点は、23日の9月全国消費者物価統計を控えて日銀の追加利上げ観測が残っていることを示唆する。WTI原油11月限は2.88ドル高の97.97ドルと続伸した。米国の原油・石油製品在庫が戦略石油備蓄を含め2003年以来の低水準となったことと、中東情勢が買い材料となった。

7．海外市場の動向

15日の米国市場はNYダウが556ドル21セント高の5万2177ドル69セントと3日ぶりに反発した。S&P500は0.33%高の7744.06で4日ぶりに反発したが、ナスダック総合は0.08%高と小幅にとどまり、SOX指数は0.9%安で7営業日続落した。9月の生産者物価指数が前月比1.3%上昇と予想の0.5%上昇を大きく上回ったものの、長期金利の低下と、AI関連からヘルスケア・素材・金融への資金移動が相場を支えた。16日のアジア市場は軒並み上昇し、韓国KOSPIが2.05%高と8営業日ぶりに反発、サムスン電子は2.62%高となった。ただ週間では14.5%下落し、2008年10月以来の下落率となっている。上海総合は0.24%高、香港ハンセンは0.52%高、豪ASX200は1.00%高。

8．直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10年債	売買代金
10月13日(火)	67,777.52	−1,253.40	4,110.67	3.005%	7.96兆円
10月14日(水)	67,744.29	−33.23	4,096.78	3.000%	7.45兆円
10月15日(木)	64,425.95	−3,318.34	3,999.34	2.920%	10.14兆円
10月16日(金)	65,324.29	+898.34	4,066.00	2.930%	7.67兆円

9．総括と注目点

7営業日ぶりの反発は32業種上昇という幅の広さを伴ったが、前日の下げの27%しか取り戻せていない。相場の主役であるAI・半導体の需給観が改善したと判断できる材料はまだなく、米SOX指数が続落を続ける間は、日経平均の戻りは値がさ株の自律反発に依存しやすい。目先は6万5000円を維持できるかが焦点で、割り込めば6万4000円近辺、回復が続けば6万6000円～6万7000円が上値の目安となる。

- 10月21日(水)の米メタ・プラットフォームズ決算(米国時間)。AI向け設備投資計画と収益見通しが、半導体関連の需給観の分かれ目になる。同日はIBM、テスラ、テキサス・インスツルメンツの決算も並ぶ。
- 10月23日(金)の9月全国消費者物価統計。市場予想を上回れば日銀の追加利上げ観測が強まり、円高が株価の重荷となりうる。同日は国内でファナック、東京製鉄などの決算も控える。
- 10月20日(火)の20年物国債入札。15日に大きく低下した超長期ゾーンの金利が、どの水準で買い手を集めるかを測る場面となる。
- 10月27～28日のFOMC。15日時点で利上げ確率は約27%、12月までの追加利上げ確率は67%と織り込まれており、米金利の5%台での推移が続くかが焦点。

脚注　寄与度合計、上昇幅に対する寄与率、前日の下げに対する戻り率、日中値幅は筆者算出。売買代金・売買高は概算値。騰落銘柄数は株探の大引け記事(10月16日15時32分配信)、寄与度は株探とフィスコの「大引け」版で一致を確認した値を用いた。10月16日の新発10年債利回りと長期国債先物終値は共同通信を採用。2年・5年・20年債利回りは10月15日時点で、出典(フィスコ、10月16日15時38分配信)の見出し日付と本文内容に不整合があるため時点を明記した。同出典の先物終値125円54銭は、共同通信の前日比から逆算した10月15日水準125円60銭と6銭の差がある。10月15日の10年債利回り2.920%も同様の逆算による筆者算出値。WTI原油11月限は、みんかぶの終値表と概況が一致した97.97ドル(2.88ドル高)を採用し、フィスコの97.60ドル(2.51ドル高)は採らなかった。SOX指数の終値水準は出典が得られず「—」とした。本資料は生成AIを用いて公開情報を整理・執筆した。出典：共同通信、日本経済新聞、株探、フィスコ、ロイター、みんかぶ、OANDA証券、外為どっとコム、日経平均プロフィル、日本相互証券。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。